

2019年度の活動を振り返って



ホーチミン日本商工会議所
会頭
岡田 英之

本年度を始めるにあたり、私は「一体感と誇りを感じられるJCCH」を会員の皆様に提案しました。これは、何か新しい大型イベントを実施すれば実現できるものでも、また組織体制を変えれば実現できるものでもありません。実は「会員1社1社の思いを大切に」という地道な努力の積み重ねこそが大切なのではないかとというのが、試行錯誤をしながら会頭職を務めた感想です。

ではこの1年間、我々JCCHがどのような改善を行ってきたのかを振り返ってみましょう。今年から新たに活動に加わったものとして、「JCCH 理事と新入会員との交流会」があります。理事との交流の場を設けることで、新入会員の皆様がJCCHの活動にスムーズに馴染んで頂けるようにと企画されたものです。これは好評を頂き、1回平均10社の参加を得て今年度3回開催しました。

また、会員として活動している企業の中にも、新たに赴任してきた方がいらっしゃいます。そういう方々のために、12月に「新規赴任者交流会」を開催しました。本年度初の試みにも関わらず予想を上回る参加申し込みを頂き、先着順で56名の方々にお集まり頂きました。これらの企画の実施を通じて、新規入会企業、新規赴任者の皆様のニーズに応えていくことの大切さを実感しています。

さてJCCHの活動の大きな柱は「事業環境の改善」です。そのために実施しているホーチミン市人民委員会とのラウンドテーブルは、今年度で18年目を迎えました。情勢の変化とともにラウンドテーブルのあり方も変わってきます。これに関しては、ホーチミン市当局へ改善を「要求」というスタイルから、「協力」して環境改善をするというスタイルへの移行を意識しました。その結果、各部局との信頼・協力関係がより深まったと言えるでしょう。

社会貢献活動もJCCHの活動の柱の1つです。これに関しては「ベトナム社会からも見えやすい」「日本とベトナムとの交流」の2つを重視して取り組みました。橋の架け替えや社会福祉施設の訪問をはじめ、今年度も様々な活動を行いました。私が印象に残っているのは日本語スピーチコンテストです。ベトナム側でも、本コンテストにとっても真剣に取り組んでいることが感じられました。社会貢献活動は、会員の皆様からの貴重な財源に基づく活動ですから、今後も「記憶に残る貢献」を続けていきたいと考えています。

会員数は増加を続け、それに伴いJCCHの活動自体も増えています。これを支える体制作りは、ここ数年、JCCHにとって大切な課題です。今年度は事務局の増員を行いました。これによりJCCH内外に対する情報発信は従来に比べて改善されたと言えるでしょう。ベトナム当局から通達などが出た場合、それを日本語に翻訳して会員の皆様に伝達するのもJCCHの役割の1つです。これに関しても、従来よりスピードアップしたことを会員の皆様も感じて頂けたのではないのでしょうか。

JCCHが行うイベントへの参加者も年々増えてきました。規模の拡大に伴い、従来のような会員企業の皆様のボランティアを中心とした運営を見直すタイミングだと言えるでしょう。参加者数が1800人を超える規模にまで拡大したマラソン大会に関しては、専門の業者に加わって頂き、安全で無理のない運営体制を確保するように改善しました。

ところで、今般、新型コロナウイルス問題が我々の事業と生活に大きな影響を及ぼしています。これに対し、会員の皆様に迅速かつ正確な情報提供を行うのも、JCCHに期待されている役割でしょう。当地の日系組織である総領事館、JETRO、JICA、そしてJCCHは、平素よりほぼ毎月1回のペースで会合を行ってきました。事務局長と共に私も毎回出席しています。新型コロナウイルスによるダメージは、様々な場面においても出てくることが予想されますが、オールジャパン体制でこれを乗り切りたいと考えています。

最後になりましたが、この1年間、支えてくださった執行役員、部会理事および委員の方々をはじめとする会員企業の皆様、そして上田事務局長以下、事務局スタッフの皆様にお礼を申し上げます。一体感と誇りを感じられるJCCHに少しでも近づけたのであれば、嬉しい限りです。